

令和4年度 自己評価・学校関係者評価

学校番号

2

岐阜県立岐阜北高等学校

1 学校教育目標	<p>(1) 知・徳・体の調和のとれた生徒を育成する</p> <p>(2) 確かな学力を身に付け、創造的思考力と主体的実行力とを併せ持つ生徒を育成する</p> <p>(3) 高い志とグローバルな視野を持ち、自身の夢の実現と地域社会の持続可能な発展に貢献できるたくましい実践力を備えた人間性豊かな生徒を育成する</p> <p>(4) 倫理観や規範意識に基づく社会性を育むとともに、他者を思いやる心に富む生徒を育成する</p> <p>(5) 健康維持や体力づくりを推進し、自他の生命を尊重できる生徒を育成する</p>
2 現状の分析	<p>(1) 誠実で礼儀正しくスマートな生徒が多い。学ぶ意欲や規範意識も総じて高く、人間関係もお互いに敬意を払うことができ落ち着いている。部活動への加入率も90%弱と勉強のみに偏らず、充実した高校生活を送る生徒は多い。全生徒・保護者に実施したアンケート欠課も各分野において総じて80%以上が肯定的な意見である。○</p> <p>(2) 進学重視型単位制高校として4年目を迎え、新学習指導要領による教育課程が1年生から始まった。1年次の英語、数学、国語での分割あるいはTT（チーム・ティーチング）による基礎学力の定着を図り、思考力や判断力を重視する大学入試改革(高大接続改革)に対応した進学指導体制を整備に努めており、国立・公立大学(例年200名程度が合格)を中心に生徒の進路実現を目指している。○</p> <p>(3) 「グローバル探究実践事業」（県教委指定事業）を活用し、「総合的な探究の時間」を中心に1年次は職業や大学の研究を中心に、2年次では、SDG'sや地域の課題解決をテーマに探究活動を進めて生徒の視野を広げようとしている。コロナ禍のため外部との連携に制約があるが指導体制や学習内容の充実を努めている。○</p> <p>(4) コロナ禍の中での学校行事見直しや、新しい時代における校則の在り方の議論を生徒と進める中で、学校全体の安全や安心、公共の福祉のためのルールやマナー、少数者への配慮などを学び、生徒が課題解決に向けて積極的に取り組んでいる。○</p> <p>(5) 新型コロナウイルス感染症対策では、マスク着用や手指消毒、健康チェック、換気等の三密回避により全校体制で校内感染を防いできた。命を守る訓練(避難訓練)、交通講話、人権LHRやSOSの出し方のLHR、いじめ迷惑調査の実施など、学校は命を守ることを最優先にしている。○ 県条例でヘルメット着用が努力義務とされ、本校は交通安全推進校に指定された。登下校時の自転車事故を防ぐために今後も継続的な指導が必要である。▲</p>
3 学校の抱える課題	<p>(1) 学校の教育目標及び明確に位置付けられたスクール・ポリシーを柱に、生徒の全人的な育成を目指して、各種学校行事等の目的を明確にしながらか査し、3年間を見通した教育計画を策定していく必要がある。</p> <p>(2) 進学重視型単位制高校として、個別最適化、ICT活用、対話的で深い学び、開かれた教育課程等をキーワードに、新しい教育課程の運用を試行錯誤で進めながら、授業改善を図り、創造的思考力と主体的実行力を育てながら進路実現を図る必要がある。</p> <p>(3) 今年度から1年生に導入した「総合的な探究の時間」等を利用し、岐阜青年会議所等と連携した岐阜市への政策提言、JAICA等と連携した国際的な課題解決の研究、名古屋大学との連携など、県教委指定「グローバル探究実践事業」を有効活用し、地域社会と連携し様々な体験や挑戦の機会を提供していく必要がある。</p> <p>(4) 学校は一人一人の自己実現を図るための学びの場であるとともに民主的な集団生活の場であり、生徒同士が活発に議論し、意見交換ができるよう既存の生徒組織である生徒議会や各種委員会の活性化を図る必要がある。校則やルールを単に守らせるだけでなく、法が弱者を守り、皆が安心安全に生活するためにあることを理解した上で、課題があれば自分たちの手で改善し、より良い社会を創造するために、生徒が議論し発信できる機会の提供が必要である。</p> <p>(5) 引き続き新型コロナウイルスの感染防止に努めるとともに、「命を守る訓練」等により東南海地震等の大規模災害に備える。また、「いじめ迷惑調査」や「心のアンケート」、カウンセリングや特別支援教育の充実により、生徒一人一人の悩みに寄り添える校内体制を整備する必要がある。交通安全やヘルメット着用については推進校として、これまで以上に指導を進める必要がある。</p>
4 今年度の具体的な重点目標 学校経営 教務部（教科指導） 進路指導部	<p>(1) 生徒・保護者・地域と連携し、生徒の自己実現と地域社会の持続可能な発展に貢献できる開かれた学校経営を進める。</p> <p>(2) 働き方改革を進め、業務と組織の効率化を図るとともに、地域人材や外部機関との連携を進めることで、学校の教育力を高める。</p> <p>(3) 基礎・基本となる学力を確実に習得させるとともに、思考力・判断力・表現力の伸長に努める。</p> <p>(4) 教科間の連携を図り、発展的な学習に主体性を持って取り組める生徒を育成する。</p> <p>(5) 個々の生徒の学力や特性、ニーズ等の把握に努め、個に応じた教科指導を充実させる。</p> <p>(6) 生徒一人ひとりの能力・適性を十分把握し、三か年を見通して計画的にキャリア教育を進める。</p> <p>(7) 生徒が自己の生き方を主体的に探究し、高い目標を実現しようとする意欲・態度・能力を育成する。</p> <p>(8) 生徒及び保護者が進路検討を深める機会を潤沢にする。</p> <p>(9) 大学入試を取り巻く環境の変化を的確に把握し、個々の志望に合わせた進路実現を支援する。</p>

生徒指導部	<p>⁽¹⁰⁾ 自他の命を大切にす お互いをかけがえのない存在として認め尊重し、命の大切さを実感できる取組みを充実する。</p> <p>⁽¹¹⁾ いじめをしない、させない、許さない いじめを許さない学校づくり、学級づくりを進め、生徒一人一人を大切にす。</p> <p>⁽¹²⁾ マナーとモラルの向上 社会通念上の必要性、人格的自律、法的責任を必要最低限の基準とし、自ら判断し、場にふさわしい行動がとれる生徒を育成す。</p> <p>⁽¹³⁾ 個に応じた信頼関係を築く教育相談 教育相談活動を充実させ、個々の生徒に対して適時・適切で具体的な支援を行う。必要に応じて外部機関（SNS/電話などでの相談窓口、Gプレイス、エール岐阜等）とも連携す。</p> <p>⁽¹⁴⁾ 生徒心得やガイドライン等の周知と不断の見直し 年度の開始時に生徒心得やガイドラインを学校ホームページに掲載するとともに、様々な機会を通じて教職員や生徒・保護者、関係機関等に周知を図る。また、社会通念や時代の進展に照らし、不断の見直し・改善を図る。</p>
特別活動部	<p>⁽¹⁵⁾ 感染症等の事情によって行事等の実施を諦めるのではなく、「どのようにすれば実施できるか」という視点を持って企画・運営に当たる。（全項目共通）</p> <p>⁽¹⁶⁾ 集団や自己の生活、人間関係の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意志決定したりすることができるようにする。（HR活動）</p> <p>⁽¹⁷⁾ 多様な他者と協働し、学校生活の充実と向上を図るための諸問題の解決に向けて、計画を立て役割を分担し、協力して運営することに主体的に取り組むことができるようにする。（生徒会・各委員会委等の活動）</p> <p>⁽¹⁸⁾ 集団で協働し、よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通し、集団への所属感や連帯感を深める。（学校行事）</p> <p>⁽¹⁹⁾ 自らの興味・感心に従って意欲的に参加することにより、自己の可能性にチャレンジするとともに、学年を越えた人間関係を構築し、自主性・社会性を育成する。（部活動）</p>
保健厚生部	<p>⁽²⁰⁾ 生涯にわたり健康な生活をすすんで営む能力・態度の育成を図る。</p> <p>⁽²¹⁾ 自他の生命を尊重し、安全に配慮できる実践力を育てる。</p> <p>⁽²²⁾ 地震や非常変災時に備え、「自分の命は自分で守り抜く」ための防災教育・防災管理を推進する。</p> <p>⁽²³⁾ よりよい環境づくりに努め、環境を大切にす態度と心豊かな人間性を養う。</p>
図書部	<p>⁽²⁴⁾ 学習に対する興味・関心を呼び起こし、豊かな心を育む読書指導の場である「読書センター」および「学習・情報センター」としての機能を果たす。</p> <p>⁽²⁵⁾ 読書感想文コンクールへの応募等を通して読書への関心を高め、読書の習慣化を進める。</p> <p>⁽²⁶⁾ 図書委員会の自主的な活動をサポートする。</p> <p>⁽²⁷⁾ 主体的な学習活動や生徒の進路実現に役立てる場としての学校図書館の活用を図るとともに、読書活動を充実させる。</p>
渉外	<p>⁽²⁸⁾ P T A関連行事の円滑な運営を図る。</p> <p>⁽²⁹⁾ 保護者懇談会、保護者研修会、P T フォーラム、常任委員会等の会行事の内容を充実させる。</p>
カリキュラムデザイン	<p>⁽³⁰⁾ スクールポリシーの活性化を図る。授業評価とのリンク、生徒会との連携。</p> <p>⁽³¹⁾ グローカル探究実践事業の運営。</p> <p>⁽³²⁾ 職員の研修の実施。</p> <p>⁽³³⁾ 新カリキュラム導入後の検証。</p>
全教育	<p>⁽³⁴⁾ 社会の形成者として必要な政治や選挙への関心を高め、政治的教養を豊かにすための教育の充実を図る。</p> <p>⁽³⁵⁾ 成年年齢の引下げに伴う学校教育活動上の対応について、成年年齢に達した生徒に係る在籍中の手続等について周知徹底するとともに、学校と保護者の連携を図る。</p>

年 度 目 標			年 度 末 成果と評価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価 A・B・C・D	10 成果○と課題▲	11 総合 評価
学校経営	<p>(1) 「学校運営協議会」制度を活用し、学校の「教育目標」や「スクール・ポリシー」を踏まえた「学校経営計画（マニフェスト）」を策定します。協議の結果をHPで発信・公開するとともに、生徒保護者アンケートや外部評価の結果を次年度の教育計画に反映させる等、透明性を持った学校経営を進めます。</p> <p>(2) 教育目標の達成のために学校が行う業務の目的と優先順位を明確にし、校内組織と年間の教育計画を整理し、必要な業務に人員や予算を計画的に配置します。地域人材や関係団体、行政、大学等の研究機関等、外部の教育力も有効に活用します。</p>	<p>(1) 生徒・保護者対象アンケートの実施と分析、学校運営協議会での委員ご意見 等</p> <p>(2) 生徒・保護者対象アンケート、教職員アンケート（エントリーシート）、健康チェックシート、超過勤務調査 等</p>	<p>(1) ・教育目標及びスクールポリシーを柱にして、3回の学校運営協議会を活用して、第1回で学校経営計画の承認、第2回で生徒保護者アンケート結果及び中間報告、第3回で成果と課題の報告と次年度に向けた意見をいただくPDCAサイクルが確立された。それら議論が常に公開され政策の決定が透明性を持って行われている。</p> <p>(2) ・学校医、学校薬剤師、スクールカウンセラー、スクール相談員、特別支援教育支援員、学校業務支援員、特別支援巡回指導員(新規)、大学教授、弁護士、社会福祉士等の外部スタッフの有効活用、岐阜大学や名古屋大学、岐阜青年会議所、JAICA等の外部機関との連携により、教育活動の幅を広げた。</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>(1) ○経営計画とその評価、改善のPDCAサイクルがある程度確立された。 ▲現状に満足し、施策が固定化しないように、常にアンテナを高くし、新しい目標に挑戦する姿勢を維持したい。</p> <p>(2) ○ICT推進室や総務部の新設、教育相談室の充実など、必要な業務を効果的に進めるための組織の改善を進めることができた。 ▲コロナ禍下での健康管理関係での業務や行事の変更等、働き方改革に逆行する業務を職員にお願いせざるを得なかった。</p>	A
教科指導	<p>(1) ①授業中心の学習指導体制の確立に努めます。 ②1年次の各教科・科目におけるきめ細かな初期指導に努めます。特に、国語、数学、英語においては、少人数分割授業やティーム・ティーチングを効果的に実施し、基礎基本の定着を図ります。 ③年間を通して補習授業（基礎学力講座）及び個別指導により、学習支援の充実を図ります。 ④対話型、問題解決型の授業を推進し、習得した知識を活用して思考力・判断力・表現力の伸長を図り、改革が進む大学入試に対応できる力を育成します。 ⑤研究授業や公開授業を通して、授業の質向上と教科・科目連携を推進し、さらなる授業改善に努めます。 ⑥観点別評価を意識した授業展開を進めます。</p> <p>(2) ①各教科において、発展的な学習を位置づけ、教科間で連携して教科横断的な学習を推進します。 ②教育面談などを通し、生徒に自己の目標を意識させ、主体的に学習に向かう姿勢を育成します。 ③学校外での主体的な活動を単位化し、生徒の主体的な活動を支援します。 ④タブレット等のICT機器を運用・整備し、機器を利用した授業の充実を図ります。</p> <p>(3) ①生徒の学力を的確に分析・把握し、より高い学力の定着のため教科、担任、学年、分掌、部活動との連携を十分に図り、適切な対応を実施します。 ②不登校や体調不良の教室に入れない生徒の教科・科目の履修・修得について、担任、学年、教科、分掌、部活動、教育相談、保護者との連携を綿密にし、個に応じた学習指導を充実させます。 ③履修登録の説明会を生徒及び保護者に実施し、教育面談も活用して個に応じた履修選択を進めます。</p>	<p>(1) ①生徒による授業アンケートの分析 ②調査や実力テストの分析 ③教師間の相互授業評価</p> <p>(2) ①取り組み状況の分析 ②生徒による授業アンケートの分析 ③教員間の相互授業評価</p> <p>(3) ①履修登録状況の分析 ②個別対応が必要な生徒への指導は適切であったか検証 ③生徒アンケートの分析</p>	<p>(1) 1年次の少人数分割授業やティームティーチングの実施により、高校での学びへのスムーズな橋渡しが行われた。 授業アンケート分析することで授業改善が行われた。 観点別学習状況評価の導入に伴い、考査作成時の問題検討がより活発に行われた。 計画的に公開授業を実施し、相互に意見交流ができた。</p> <p>(2) 探究的な学習を意識し、協働的な活動を取り入れた授業が増えた。 教育相談（二者面談）週間を設定し、学級担任による生活面・進路面の相談がきめ細かく行われた。 北斗リーダーズプランの導入により、高大連携事業への参加が活発に行われた。 多くの授業でICT機器の活用が進んだ。</p> <p>(3) 生徒への評価に関する各教科の取り組み状況を調査し、共有資料として配付することで、生徒の学力を評価及び分析する際の手段や視点を増やすことができた。 コース登録の生徒向け説明会を行い、保護者に対しては作成した説明用の動画をYouTubeにて配信した。 必要に応じて生徒学習指導委員会を開き、個々の学習指導について検討を行った。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>(1) 対話型や問題解決型の公開授業が実施でき、授業改善が進んだ○ 他教科との相互授業参観が積極的に行えなかった▲ 考査や実力テストで学力別の分析が細かく検討された○</p> <p>(2) オンラインでの学習支援で全体のICTのスキルがアップした○ 定期的な教育相談により、生徒の悩みの早期発見につながった○ 高大連携事業が生徒の進路決定にどのような影響を与えているのかが顕彰できていない▲</p> <p>(3) 科目履修に際し、学級担任からきめ細かい説明を行ったことで混乱が防げた。また、保護者との情報共有ができた○ 問題を抱えた生徒に対して指導について共通理解を図ることができた○</p>	A
進路指導	<p>(1) ①「総合的な探究の時間」を中心に、生徒が主体的に自分の考えを持って行動できるような企画を充実させます。 ②「キャリアパスポート」「ポートフォリオ」を活用し、学びのPDCAサイクルの確立を図ります。</p> <p>(2) ①系統別進学説明会、大学の出前講座等を企画し、生徒が主体的に進路決定できるよう支援します。 ②補習、土曜講座、集中学習会を実施し、生徒の学力向上を支援します。</p>	<p>(1) ①生徒対象アンケートの分析 ②キャリアパスポート・ポートフォリオへのアンケート配信回数</p> <p>(2) ①生徒対象アンケートの分析 ②実力テスト・外部模試の結果分析</p>	<p>(1) ①アンケートの結果「本校では生徒の志望する進路実現に向けた行事や情報提供を行い、個に応じた支援に努めている」79%（R3）→87%（R4）とAB評価が上昇した。 ②1・2年生は年間3回、3年生は年間2回のキャリアパスポート活用、講演会や研修会、考査ごとにポートフォリオへの入力を促進した。</p> <p>(2) ①全4回の名古屋大学出前講座では、全回に渡って97%以上の生徒が「満足」「やや満足」と回答しているなど、参加した生徒から高評価を得ることができた。 ②夏季補習8日間、土曜講座11回、集中学習会（2年、3年）を実施できた。</p>	<p>A</p> <p>B</p>	<p>(1) ①全体を通して生徒が主体的に自己の進路を模索し、実現に向けて成長できるよう、進路指導部として啓発することができた。○ ②生徒の活動履歴を残すことができた。○ 将来を模索するために、その履歴・足跡を有効に活用させる方法を仕掛けるのが今後の課題。▲</p> <p>(2) ①1年生の系統別進学説明会の実施時期を、現行の10月から、5月か6月への変更を検討する。 ②実力テスト、外部模試の結果の活用で課題が残った。職員会議で提供する資料の工夫を検討する。▲</p>	A

	<p>(3) ①進路講演会、保護者研修会を実施し、情報提供を行います。</p> <p>(4) ①国や大学の動向を的確に把握し、情報提供に努めます。 ②難関大学受験、多様な進路志望に合わせた支援を行います。従来通りの細やかな志望校検討会、出願校検討会、懇談、結果分析会を継続します。</p>	<p>(3) ①生徒・保護者対象アンケートの分析</p> <p>(4) ①生徒・保護者対象アンケートの分析 ②進路実績</p>	<p>(3) ①アンケートの結果「本校では生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている」77% (R3) →89% (R4)、「本校では生徒の将来の希望に沿った具体的な進路指導が行われている」78% (R3) →88% (R4) とAB評価が上昇した。</p> <p>(4) ①保護者向けにこまめに情報発信できた。保護者向けClassi配信24回、YouTube配信3回、再受験生向けYouTube配信1回 (11月未現在) ②現在、全3回の推薦委員会、志望校検討会、出願校検討会、懇談等で支援中。</p>	<p>A</p> <p>A</p>	<p>(3) ①進路講演会、保護者研修会、懇談時の資料提供等を効果的にできた。○</p> <p>(4) ①ClassiやYouTubeの配信を、年間を通してこまめに複数回行うことができた。○ 意図を明確にし、全体への発信と個への発信をより効果的に差別化できるよう模索するのが次の課題。▲ ②伝統を受け継ぎ、北高の進路指導を実施できた。○</p>	
生徒指導	<p>(1) ①人や価値観の多様性を認め、お互いを尊重できる正しい人権意識の涵養を図ります。また、あらゆる教育活動の場面を通じて自己有用感を持たせます。 ②SOSの出し方に関する教育を推進します。 ③所轄の警察や地域と連携した啓発活動を行うなど、交通事故防止教育に取り組みます。</p> <p>(2) ①学校が丸となり、未然防止はもとより早期発見・早期対応に努め、組織的に対応します。 ②学校教育全体を通じて、いじめを人権問題として捉え、「いじめは人間として絶対に許されない」行為であるという意識を生徒一人一人に徹底します。 ③学校がいじめ防止に対する取組みについて第三者から意見をもらおうとともに見直しを図ります。</p> <p>(3) ①交通法規・交通マナーを守ることはもちろん、他者への配慮を失わず、迷惑になるような行為を厳に謹むなど、交通モラルの向上を図ります。 ②情報モラル教育を推進し、情報機器の扱いや情報モラルの向上を図ります。</p> <p>(4) ①日常の観察や二者面談、各種検査やアンケートを効果的に活用し、多面的な生徒理解に努めます。特に悩みや課題を抱えている生徒に対しては、保護者や外部関係機関と連携し、生徒個々に合わせた対応を行います。 ②特別な支援を必要とする生徒に対しては、本人や保護者の申し出に基づき、十分な話し合いのうえで合理的配慮の提供を行います。また個別の支援計画・教育指導計画の作成を勧めます。 ③生徒の支援においては、担任だけでなく学年会・教育相談係・養護教諭・スクールカウンセラー等、組織的な支援を強化します。 ④教育相談に関する校内研修、総合教育センター等の研修を奨励し、教職員の資質向上を図ります。</p> <p>(5) ①年度の開始時に生徒心得やガイドラインを学校ホームページに掲載するとともに、様々な機会を通じて教職員や生徒・保護者、関係機関等に周知を図ります。また、社会通念や時代の進展に照らし、不断の見直し・改善を図ります。</p>	<p>(1) ①人権講話の実施回数、人権統一LHRの実施回数 ②スクールカウンセラーによるLHRの実施回数 関係機関の刊行物 (リーフレットやポスター) の活用回数 ③交通事故・交通違反の件数 街頭指導の回数 発生防止につながる機関紙の発行回数</p> <p>(2) ①いじめの認知件数 ②人権講話の実施回数、人権統一LHR実施回数、いじめ防止対策チェックシート 実施回数、いじめに関するアンケート 実施回数 ③いじめ防止等対策検討会議 実施回数</p> <p>(3) ①交通講話実施回数、集会等で話をする回数、発生防止につながる機関紙の発行回数、関係機関の刊行物 (リーフレットやポスター) の活用回数 ②授業 (社会と情報) での取組、情報モラル講話の実施回数、保護者対象情報モラルに関する研修実施回数、情報モラルに関する統一LHRの実施回数、関係機関の刊行物 (リーフレットやポスター) の活用回数</p> <p>(4) ①教育相談週間 実施回数、クレペリン検査 実施回数、i-check検査 実施回数、スクールカウンセラー等活用事業の活用回数と要望に対する実施率%、スペシャリストサポート派遣事業活用回数と要望に対する実施率%、心のアンケート 実施回数 ③教育相談につながる機関紙の発行回数 ④教育相談に関する校内研修の実施回数、総合教育センター等の研修に参加した人数</p> <p>(5) ①生徒心得、身だしなみ・校内外の生活に関する生徒と教員の申し合わせ事項、生徒指導のガイドライン、いじめ防止等のための基本的な方針、いじめ対応フローチャートの見直しを図ったか否か</p>	<p>(1) ①人権講話【外部講師】1回 (R2, 0回 R3, 0回) 人権統一LHR【外部講師】1回 (R2, 1回 R3, 1回) ②SCによるLHR【SOSの出し方に関する教育】1回 (R2, 0回 R3 1回) 刊行物の活用 3回 ③交通事故等 24件 ※11月末 (R2, 24件 R3, 19件) 街頭指導 12回 (R2, 3回 R3, 5回) 機関紙発行 3回 (R3, 4回)</p> <p>(2) ①いじめの認知件数 4件 (R2, 15件 R3, 4件) ②人権講話【外部講師】1回 (R2, 0回 R3, 0回) 人権統一LHR【外部講師】1回 (R2, 1回 R3, 1回) いじめ防止対策チェックシート2回 (R2, 2回 R3, 2回) いじめに関するアンケート 2回 (R2, 2回 R3, 2回) ③いじめ防止等対策検討会議 2回 (R2, 2回 R3, 2回)</p> <p>(3) ①交通講話等 3回 (R2, 1回 R3, 1回) 発生防止につながる機関紙 3回 (R3, 4回) 関係機関の刊行物 2回 ②情報モラル講話 1回【外部講師】 (R2, 2回 R3, 1回) 保護者対象の研修 1回 (R3, 1回) 統一LHR 1回 (R3, 0回) ※情報モラル違反 (特別指導) の発生件数 1件 (R2, 2件 R3, 0件)</p> <p>(4) ①教育相談週間 2回 (R2, 2回 R3, 2回) 心のアンケート 10回 (R2, 10回 R3, 10回) クレペリン検査 1回 (R2, 1回 R3, 1回) i-check検査 1回 (R2, 1回 R3, 1回) SC, SP 要望に対して100%対応できている ③教育相談につながる機関紙の発行回数 6回 (R3, 6回) ④校内研修 1回 (R2, 1回 R3, 1回)</p> <p>(5) 年度内に見直しを図り、企画委員会で提案、職員会議で周知、学校HPに掲載する予定 ※特別指導の発生件数 1件 (R2, 3件 R3, 1件) ※啓発につながる機関紙の発行回数 6回 (R3, 9回)</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>B</p> <p>A</p>	<p>(1) ・幸いにも大半は軽傷だが、交通事故は登校時が圧倒的に多い。 ・来年度はヘルメット着用や時間にゆとりをもった行動を促す指導が必要である。 ・啓発活動は、今年度も外部からの依頼や定期的な活動だけでなく、自発的な活動ができた。 ・SSWの派遣申請、ケース会議を開催したことでその生徒に携わる教員間で情報共有し、指導を一本化することができた。今後も可能な限り、専門家を要請し実情に則した対応をしていきたい。</p> <p>(2) ・組織的に迅速な対応ができた。 ・法が定義するいじめを未然に防ぎ、一切のいじめを発生させないことは、現実的に不可能である。 ・本校が目指すべき姿勢は、いじめ0件、いじめ認知0件ではなく、いじめ見逃しが0件。 ・「認知件数が多い＝初期の段階で広く網にかけられている」と捉え、今後も組織的に対応していく。</p> <p>(3) ・校則等に関して、「生徒が中心のパイロット校」として推進できている。 ・しかし、服装選択制を校則自由化だと勘違いし、校則順守の意識・モラルの低下が否めない。 ・イエローカード利用した生徒と教員の対話が中心となる指導法を浸透させる必要がある。 ・外部からの苦情も多く、高校生として当然兼ね備えているであろう常識やモラル・マナーが、標準装備になっていない生徒もいる。この辺りも粘り強く指導していく必要がある。</p> <p>(4) ・悩みを抱える生徒やその保護者の相談に応じ、精神面でのサポートができた。 ・アンケート結果で、生徒・保護者ともに「教育相談室や保健室は利用しやすい」に対し低評価。 ・定期的な案内や説明が来年度必要であると考えている。 ・「アンケートや調査の回数が多い」という意見もあるが、不安を抱えている生徒を把握するために不可欠。実際、悩みを把握し、生徒を相談へ導く、必要に応じてSC面談を実施できた。</p> <p>(5) ・今年度の運用から「身だしなみ・校内外の生活に関する生徒と教員の申し合わせ事項」、「生徒指導のガイドライン」、「いじめ防止等のための基本的な方針」、「いじめ対応フローチャート」に関して、見直し・改善すべき点があることが分かった。年度内に見直し、来年度の運用につなげたい。</p>	B

<p>特別活動</p>	<p>(1) ・プロジェクトごとの定期的な打ち合わせによる意思形成します。</p> <p>(2) ・HR活動の企画・運営を学年会や担任に任せきりにせず、特別活動部から働きかけをします。</p> <p>(3) ・生徒との対話を通した意思形成、スクールポリシーベースの評価をします。</p> <p>(4) ・全校を巻き込んだ企画・運営をします。</p> <p>(5) ・コロナ禍での部活動運営、部活動数の見直しに関する周知します。</p>	<p>(1) ①打ち合わせ実施回数の確認 ②年間振り返りにおける、特別活動部の教員の発言内容</p> <p>(2) ①行事後の振り返りアンケートの結果の分析 ②学年会の先生方の反応</p> <p>(3) ①生徒への質的調査の結果の分析 ②行事後の振り返りアンケートの結果の分析</p> <p>(4) ①生徒への質的調査の結果の分析 ②行事後の振り返りアンケートの結果の分析 ③年間振り返りにおける、特別活動部の教員の発言内容</p> <p>(5) ①部活動活動実績の分析 ②R5に新体制での部活動が開始できる状態になっているかの分析</p>	<p>(1) ①特別活動部全体…8回 (R3…3回)、部活動プロジェクト…16回、行事プロジェクト…19回 (生徒とのミーティングで代替) ②年間振り返りの分掌会の実施。</p> <p>(2) ①北高祭後のアンケートの結果を用いた分掌会の実施。 ②北高祭の企画・運営における、学年会の先生方の反応の振り返り。</p> <p>(3) ①学校祭後、生徒会執行役員との振り返りを実施。 ②北高祭後のアンケートを用いた分掌会、応援団との話し合いの実施。</p> <p>(4) ①学校祭後、生徒会執行役員との振り返りを実施。 ②北高祭後のアンケートの結果を用いた分掌会の実施。 ③年間振り返りの分掌会の実施。</p> <p>(5) ①県8位以上の成果を一覧にまとめる。 ②部活動プロジェクトでの打ち合わせの実施 (16回)。校内外への体制変更の周知。</p>	<p>B</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>A</p> <p>(1) ・定期的なミーティングを実施できた。特別活動部全体…8回 (R3…3回)、部活動プロジェクト…16回、行事プロジェクト…19回 (生徒とのミーティングで代替) ○ ・ミーティングでの決定事項の情報共有の不足▲ ・年間振り返りにおける特別活動部の教員の発言を見てみると、今年度の反省を生かして、次年度より良い取組をしていきたいという趣旨の発言が多く見られた。また、教員が生徒に一方的に指示をして行事の企画・運営をするのではなく、生徒の自律的な姿を願う発言が聞かれた。○</p> <p>(2) ・企画した行事をすべて実施できたこと。○ ・特別活動部から学年会の先生方への情報提供の不足▲</p> <p>(3) ・応援団との打ち合わせを通して、体育祭における応援団の位置づけの再確認をした。○ ・振り返りや振り返りアンケートは実施しているが、スクールポリシーベースになっていない。▲</p> <p>(4) ・ハロウィン企画やクリスマスイルミネーション企画等の企画を、生徒発信で企画した。○ ・一般生徒への情報伝達のタイミングが遅く、全校を巻き込んだ企画とは言い難い。▲</p> <p>(5) ・毎週打ち合わせを実施し、抜け漏れなく進められているか確認した。○</p>	<p>B</p>
<p>保健管理・安全管理</p>	<p>(1) ・定期健康診断や保健行事、通信等のあらゆる機会を通して健康管理についての意識を高めます。 ・定期健康診断の事後指導や個別指導の充実を図り、受診行動に繋げます。</p> <p>(2) ・新型コロナウイルス感染症の予防対策の徹底と継続を図ります。 ・定期点検や日常点検を通して、安全への配慮を高め、環境改善につなげます。 ・多様な生徒に対して教育環境の整備を図り、共生していく資質を高めます。</p> <p>(3) ・危機管理に関する職員研修 (危機管理マニュアルの読み合わせ、非常災害時の対応、食物アレルギー対応、熱中症対応など) の充実を図り、危機管理意識の向上を図ります。 ・生徒の防災意識の向上を目指し、訓練やその他の機会を設定して防災教育を進めます。</p> <p>(4) ・生徒委員会活動の活性化に努め、自分たちの学習環境に関心を持ち、より良い環境作りを目指した活動にします。 ・学校薬剤師と連携して、環境衛生の定期検査と日常点検の充実を図ります。 ・掃除監督による日常安全点検を徹底し速やかに修繕を終えるようにします。</p>	<p>(1) ・生徒の普段の言動や、保健室の来室者の様子から、健康管理についての意識の変容がみられたか。 ・定期健康診断後の受診率の向上がみられたか。</p> <p>(2) ・校内での集団感染 (クラスター) の防止ができたか。 ・安全点検の結果を受けて、修繕や改善が進められたか。 ・配慮が必要な生徒に対して適切な整備が進んだか。また、生徒同士で思いやりのある行動がみられたか。</p> <p>(3) ・職員研修に積極的に参加し、情報を共有して事故等の対応や防止に努めることができたか。 ・訓練や講話を通して、防災意識を高めることができたか。</p> <p>(4) ・委員会活動により全校生徒の環境への意識の高まりがみられたか。 ・環境衛生の定期検査や日常点検の内容に、向上がみられたか。 ・危険や不具合が起きた箇所は、速やかに修繕が行えたか。</p>	<p>(1) ・コロナ禍において、自己の健康管理に高い意識を持ち生活している生徒が数多くいた。保健室の来室者はメンタル面の不調を訴える者が多く、時間をかけて丁寧に対応した。 ・健康管理については、行事ごとの事前指導や「保健だより」等を通してタイムリーな内容で啓発を行った。 ・定期健康診断の事後指導は、特に歯科、視力、運動器に関して個別指導を充実させた。</p> <p>(2) ・新型コロナウイルス感染予防対策については、様々な場面で情報を提供して啓発活動を行ってきたが、残念ながら第八波において部活動やホームルームでクラスターと思われる感染状況が見られた。 ・配慮が必要な生徒については職員間での情報共有を心掛け、教育相談との連携を密にすることで迅速に適切な対応がとれた。</p> <p>(3) ・危機管理マニュアルに関する職員研修はマニュアルの変更点の確認を行い、食物アレルギーと救急法の講習会も実施し、対応の確認を行った。 ・生徒の防災意識の向上を目指した取り組みは、3回の命を守る訓練と今年度新たに1年生を対象とした防災講話 (浸水害) を実施した。</p> <p>(4) ・美化委員会、保健委員会を始めとした環境に対する生徒の活動は活発に行われた。学校薬剤師と連携し、環境衛生の定期検査や日常検査を計画的に実施し、改善につなぐことができた。 ・清掃監督による日常の安全点検も適切に行われ、「修繕願」を利用した速やかな修繕が行われた。</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>C</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>(1) ○学校保健計画や保健室経営計画に基づき、意欲的に健康管理や保健指導に取り組むことができた。 ○定期健康診断の結果、受診勧告をした者の受診率は昨年度より若干ではあるが向上した。今後も根気強く継続していきたい。</p> <p>(2) ▲感染予防対策については、気を緩めず職員・生徒の意識を高く持続するよう努めていきたい。 ○配慮が必要な生徒については、管理職、関係職員、スクールカウンセラー等と連携を図りながら、継続して対応できた。今後も継続していきたい。</p> <p>(3) ▲危機管理マニュアルに関しては、職員の理解を深めるところまでは達成できなかった。実際の災害が発生した場合に備え、適切に対応できるよう研修方法を工夫していきたい。食物アレルギーの事案ではマニュアル通りに動けなかった事例もあり、これも研修の内容を一考したい。 ▲命を守る訓練に関しては、避難することだけでなく、その後の行動について次年度は取り組みたい。防災講話に関しては、浸水害をテーマに初めて行ったが、一定の成果があったと考えられる。</p> <p>(4) ○委員会活動を通し生徒の環境衛生に対する意識の向上が感じられた。また、学校薬剤師との連携も十分に行われ、その結果、5年連続して「学校環境衛生活動優良校」の表彰を受けた。 ○事務部の尽力のお陰もあり、日常の修繕が速やかに行われ、環境安全が進められた。</p>	<p>B</p>
<p>図書</p>	<p>(1) 各教科と連携を密にし、学年の特質に応じた読書指導・図書館の活用を行います。(各クラスのLHRを活用した読書、各教科の授業での図書館の活用など)</p>	<p>(1) ・各クラスのLHRを活用した読書、各教科の授業での図書館の活用ができたか。 ・図書オリエンテーションを行い、情報の探し方・資料の使い方を知ることができたか。</p>	<p>(1) ・多くの教科、HR活動に利用していた。ただ、図書オリエンテーションの期間を1週間半に伸ばし、無理のない日程とした。</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>(1) ・教科によってはたいへん多くの時間図書館を使って頂いたが、0時間の教科もあり、今後はもっとアピールしていきたい。▲ ・充実したオリエンテーションができた。○</p>	<p>B</p>

	<p>(2) 「読書感想文の書き方」についての資料や過去の優秀作品を提示します。</p> <p>(3) 図書委員が企画・運営する活動を充実させます。(日常的および読書週間、文化祭など)</p> <p>(4) 新着図書案内を生徒に配付する、進路指導部と連携して、小論文を書くために読んでおきたい本、職業関連の本、新聞の切り抜き速報などの充実を図るなどCD部との連携など、本校図書館内の蔵書検索の活用を促進し、図書館の有効利用を促します。</p>	<p>(2) 読書感想文の書き方を提示し、感想文コンクールを推進することができたか。</p> <p>(3) 図書委員が企画・運営する活動を充実させることができたか。</p> <p>(4) 進路指導部やCD部との連携ができ、新着図書案内の配付や小論文を書くために読んでおきたい本などの充実を図り、生徒に提示することができたか。</p>	<p>(2) ・国語科の先生方の協力を得て、授業の中で読書感想文の意義や方法、注意事項を説明して頂いた。</p> <p>(3) ・青空図書館や店頭選書など、図書委員が参加する企画を増やし、活動を充実させた。</p> <p>(4) ・進路指導部の協力のもと、図書館での進路ガイダンスを行った。また、CD部の協力のもと、探究活動に役立つ図書を充実することができた。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>(2) ・事前にしかりとした指導をすることができ、最後の県への応募までスムーズに進めることができた。○</p> <p>(3) ・生徒自身も楽しんで参加することができ、大変よかった。○</p> <p>・生徒の自主性という点ではまだまだであり、今後は生徒の発案や積極的参加など促していきたい。▲</p> <p>(4) ・他の分掌との協力関係がうまくいき、今後も続けたい。○</p> <p>・まだまだ手探り状態であり、生徒の利用しやすい形をさらに作っていきたい。▲</p>	
渉外	<p>(1) ・会関連行事への多数の参加を得るために、会員に対して積極的な参加を呼びかけ、保護者と学校の連携強化に努めます。</p> <p>・保護者研修会は、オンデマンド配信を併用し、より多くの保護者へ情報を届けることを心がけます。</p> <p>(2) ・会員が積極的に発言し、意見交換できる機会を増やし、会活動の一層の充実・進展を図ります。</p> <p>・会報の発行やHP公開等の広報活動・情報公開の他、学校が発行する様々な資料を役員や保護者に積極的に提供し、本校の教育方針や本会の活動への関心・理解を一層深め、強い信頼関係の下で積極的な支援を得ます。</p>	<p>(1) ・会関連行事の開催を、会員に対して適切な時期に発信できたか。</p> <p>・保護者研修会を、オンデマンド配信を併用して実施できたか。</p> <p>(2) ・会員からの意見をくみ上げることができたか。</p> <p>・会報を定期的に発行できたか。</p>	<p>(1) ・会関連行事の開催を、文書やClassを併用しタイムリーに発信することができた。</p> <p>・保護者研修会は、対面とオンライン配信を併用して実施することができた。そのためコロナ対策を講じながらも、多くの保護者に進路指導等や教育活動に関する情報を届けることができた。</p> <p>(2) ・会員からの意見は、学年委員(各クラス2名の代表者)から、文書などからくみ上げることができた。そのほかの保護者からは、年度当初のPTA総会の折にClassにて意見集約をすることができた。</p> <p>・学校祭をはじめとした行事等が徐々に復活し、会報を定期的に発行し続けることができた。</p>	<p>A</p> <p>B</p>	<p>(1) ・PTA総会、保護者研修会、常任委員会など、Classiなどの情報発信ツールを用いて合理的かつ円滑に行事の実施・運営を行うことができた。○</p> <p>(2) ・PTA役員の意見を聞きながら、執行委員会や常任委員会の在り方や開催する時刻の設定、また、これまでのPTA執行役員の決め方の見直しを進めることにより、保護者が参画しやすいPTA活動の在り方を考える。▲</p>	B
カリキュラムデザイン	<p>(1) コア会議を通して、生徒へのスクールポリシーの意識づけを図ります。</p> <p>授業改善の意識の浸透のため、全職員による相互参観、授業アンケートの実施します。</p> <p>(2) 探究学習の実施します(「総合的な探究の時間」の時間を使い、本事業を計画、実施)。特に1年生では新たに総合的な探究の時間を導入するため、土台から構築します。</p> <p>(3) 探究学習実現のための職員研修を実施します。</p> <p>(4) 新カリキュラム作成が1年生より順次導入となるため、新カリと生徒がフィットしているかについて、既存のアンケートや量的な調査を利用し分析します。</p>	<p>(1) 授業相互参観の実施状況はどうか、生徒による授業アンケート。</p> <p>生徒会執行部へのインタビュー。</p> <p>(2) 年度初め、年度終わりの生徒へのアンケート調査。</p> <p>(3) 職員研修の実施実績と職員へのアンケート調査。</p> <p>(4) 既存のアンケートや量的な調査を利用。</p>	<p>(1) ・授業相互参観は実施できず。授業アンケートは6月と9月に実施した。今年度は6月のアンケート結果をもとに授業改善を行い、9月に再度同じ指標・同じクラスで実施する形に改めた。</p> <p>・生徒会執行部とのコア・ミーティングに参加した。</p> <p>(2) ・2年生については昨年同様SDGsに関するグループ探究を実施。名古屋大学留学生との交流プログラムを3年ぶりに行うとともに、新たに清流文化プラザでの探究成果発表会を予定(1月)。1年生は都合3期にわたる個人探究を実施し、担当教員と連携しながら円滑に進めることができた。年度初めの生徒向けアンケートはすでに実施。年度終わりは1月実施予定。</p> <p>(3) ・ユニバーサルデザインに関する研修(関根千佳先生・7月)及び不登校生徒への支援(元気学園・11月)の2回実施。</p> <p>(4) ・文理選択の状況や模試結果などのデータ</p> <p>・生徒の主体的な学び、探究的な学びに資する授業が実施されているか否か</p> <p>・生徒の主体的で柔軟な学びが可能なカリキュラムになっているか</p>	<p>B</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>(1) ○授業アンケートは教員の授業改善に資する形式に改善することができた。</p> <p>▲授業相互参観は来年度は実施したい。</p> <p>(2) ○1・2年生とも、外部人材(JICA、岐阜大学TA、名古屋大学留学生など)による刺激を受けながら意欲的に探究を進めることができた。</p> <p>▲プレゼン技術(声の大きさやボディランゲージなど)に関する指導を行うこと、また調べ学習に留まる研究を、「探究」にふさわしいレベルまで引き上げることが課題となる。</p> <p>(3) ○本校に向け、ユニバーサルデザインの立場から見た施設や授業の改善について提言を頂いた。また不登校生徒に対する支援についても学校でできること、外部と連携するとよいことについて教員も理解が深まった。</p> <p>(4) ○生徒の文理選択・模試結果に見られるデータは大きく変化なし。</p> <p>○教員の探究的な学びに関するマインド・スキルは向上している(授業アンケートより)。</p> <p>▲自由選択科目を事実上必修化せざるを得ず(新科目「情報」への対応)、次年度以降どうするか検討を要する。また、3年生のカリキュラムに可塑性を持たせるように検討することが今後必要である。</p>	B
全教育	<p>(1) 政治や選挙に係る内容を積極的に授業で取扱い、関心を高めて政治的教養を高めます。</p> <p>(2) 成年年齢に達した生徒に係る法律的な変更や在籍中の手続等について、生徒・保護者への周知します。</p>	<p>(1) 生徒・保護者対象アンケート 等</p> <p>(2) 生徒・保護者対象アンケート 等</p>	<p>(1) 公民科目の中で選挙について扱うこととどまっている。</p> <p>(2) 7月の参議院選挙時には3年次生徒への投票の呼びかけなどを行った。生徒の学校でのマイナカード登録に協力した。</p>	<p>C</p> <p>B</p>	<p>(1) 第3者としてお互いに教職員の中立の立場を維持しているかの確認が必要である。</p> <p>(2) 書類については未成年者と成年者との違いが明確になるよう整備することができた。</p> <p>成年となった生徒に関して保護者への確認を行った上での対応を行った。</p>	C

12 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	13 来年度に向けての改善方策案
<p>(1) スクールポリシーは、大変重要なものと認識しており、ぜひともそれに沿った運営をしていかれ、北高の目指す教育が実を結ぶことを期待している。子どもが北高に入学し、その成長過程で多様性への理解が一層深まるなど、北高の教育に非常に感謝している。今後も、知・徳・体のバランスのとれた教育を続けて欲しい。</p> <p>(2) 教科教育、進路指導、生徒指導の重点の随所に、「個に応じた指導」という言葉があり、ぜひ実現をして欲しい。大学の学問を知る機会が充実しているのはよいが、それに加えて職業と結びつけて考える機会の充実を図れるとなおよい。偏差値が高い大学だから目指すというのではなく、本当に自分が学びたいことがある専門性の高い大学を目指すといった校風になるとよい。</p> <p>(3) 1年次より探究活動に取り組めるカリキュラムとしたことはすばらしい。2年次の探究発表会では、生徒は生き生きと発表しており、内容や質も向上していた。清流プラザのような大きなすばらしいホールで発表できるという機会は、今後の人生の糧につながるのではないかと。学校だけでなく地域・自治会・保護者等と共に協力して展開できるような教育活動を考えて欲しい。</p> <p>(4) 生徒の自主性を尊重しながらも、学校内で生徒に指導すべき共有事項については、生徒や先生が協働して検討できる場を作ってほしい。また、県のいじめの対策委員として様々な事例を伺っているが、本校の生徒は利己的な生徒に対して適度に距離を置くなど上手に対応しており、問題にはなっていないと思える。</p> <p>(5) コロナ禍において行事を諦めるのではなく、「どのようにすれば実施ができるのか」という姿勢がよい。また、生徒にとっての3年間はかけがえのないものなので、可能な限り充実した教育活動を推進してほしい。ホームページで北高の行事が再開されている記事を見て嬉しく感じている。コロナ対策に苦勞しながら前に進んでいる姿がよく伝わってくる。評価Cのついた項目の多くはコロナが原因のものであり、減少してきている。</p>	<p>(1) 学校の教育目標及びスクール・ポリシーを柱に、知・徳・体の健全な育成を目指して、各学校行事等の目的を明確に示しながら精査し、発達段階に応じて3年間を見通した教育計画を策定する。【自分を啓く】</p> <p>(2) 進学重視型単位制高校として、個別最適化、ICT活用、対話的で深い学び、開かれた教育課程等をキーワードに、新教育課程の趣旨を踏まえ、探究的な学びを通して、創造的思考力と主体的実行力を育て、生徒の進路実現を支援する。【自分を啓く】【自ら拓く】</p> <p>(3) 1年生から導入した「総合的な探究の時間」や、県教委指定「グローバル探究実践事業」を有効活用し、地域社会や外部機関と連携しながら、働くことや学ぶことの意義を見出し、主体性を持って取り組める様々な体験や挑戦の機会を提供していく。【自分を啓く】【自ら拓く】</p> <p>(4) 学校は民主的な集団生活の場であり、生徒同士が活発に議論し自ら実践できるよう既存の生徒会組織の活性化を図る。校則やルールは単に守るだけでなく、皆が安心安全に生活するために必要なことを理解した上で、自分たちで課題を解決し、より良い社会を創造するために主体性を持って議論ができる機会を提供する。【自ら拓く】【共に拓く】</p> <p>(5) 引き続き感染防止策に努めるとともに、「命を守る訓練」の充実、交通マナーやヘルメット着用の啓発に努める。「心のアンケート」、教育相談や特別支援教育の充実により生徒一人一人に寄り添える校内体制を整備するなど、自他の命を大切にすると心とスキルを身に着ける。【自分を啓く】【共に拓く】</p>